

学園点描

二者面談・三者面談へのご協力、ありがとうございました。保護者の皆さまと子どもにとって、前向きな一歩となる時間であれば嬉しく思います。

《H学園》

NO.11

R7. 7. 24

担当：校長

7月19日（土）にS市民文化会館で開催されたY県吹奏楽コンクールS北地区予選会において、本校吹奏楽部が優秀賞を受賞し、県大会出場を決めました。

7月12日（土）・13日（日）、18日（金）～21日（月）にかけて行われたY県中学校総合体育大会では、以下のような素晴らしい成果がありました。

柔道競技 女子個人52kg級の部：Y・Iさんが準優勝し、東北大会出場を決定

女子バスケットボール部：第3位入賞の快挙。

陸上競技 男子共通走高跳：O・Sさんが6位入賞し、東北大会出場を決定

生徒たちの努力と活躍に心から拍手を送りたいと思います。今後のさらなる飛躍を期待しています。

目を覚まさせてくれた人

第一章

「最近の言葉で『上級国民』という言葉が一番嫌いです」と、テレビの中である政治家の人が言っていました。「わたしだったら何だろう？」そう考えて出てきた言葉が『マウントを取る』でした。“マウントを取る”とは、相手よりも優位な立場にあることを示そうと、自慢したり、相手を貶（おとし）めたりする行為を指します。もともとは、サル山のサルが自分の優位性を周囲に示す行動を表す、動物行動学の専門用語だそうです。

第二章

友人のAさんが体験した、ある駐車場管理人の話を知りました。Aさんは事務所近くの駐車場を借りていて、そこには定年退職後に働き始めた初老の雇われ管理人がいました。Aさんが利用するたび、管理人さんは笑顔で「おはようございます。今日もいい天気ですね」と声をかけてくれたそうです。



通常、満車になると“満車”の看板を出すだけですが、その方は入口に立ち、一人ひとりのドライバーに「申し訳ありません。満車です」と頭を下げていたといいます。そんな時、決まって「どうせ雇われ管理人だろ！なんとかしろ！」と暴言を吐く人が現れます。自分の方が上だとマウントを取るのです。

それでも管理人さんは、丁寧に頭を下げ続けました。文句を言った運転手が

「ちえっ」と言って立ち去っても、その車が見えなくなるまで頭を下げて見送っていたそうです。Aさんは、それを見ながら「そこまでしなくても…」と思ったと言います。

ある日、車を止めてあいさつをすると、管理人さんは「今週いっぱいです。いろいろお世話になりました」と話してくれました。奥さんが病気になったんだそうです。Aさんは残念に思いながら、最後の日に感謝の気持ちを込めて手土産を渡そうと決めたそうです。



第三章

二者・三者面談が始まった日の放課後、9年生の女子生徒4人が、手作りのラズベリーケーキを持って校長室を訪ねてきました。味見をお願いしたいとのこと。今後、プロとコラボして商品化したいという話を語ってくれました。わたしは「もう少し赤が強いといいかも」「もっと映える工夫が必要かもね」など、少し厳しめの意見を伝えました。それでも4人は、真剣な表情で耳を傾けてくれます。相手の成長を願って伝える言葉——それは、マウントではなく「厳しい意見」です。最後に「売れる味にするには、いろんな人に食べてもらって、厳しい意見をもらうことが大事だよ」と伝え、4人は「わかりました！」と職員室へ向かっていきました。

最終章

Aさんが着いた時、小さな管理人室の周りには、多くの人であふれていました。管理人室の中も外も、手土産や花束でいっぱいだったそうです。一人ひとりが、雇われ管理人の老人に感謝のお礼をいったり、握手したりしていたそうです。Aさんは、その時の状況をわたしに語りながら、こう言いました。

「人を上から見ていた自分の目を、覚まさせてくれた人なんだよなあ」と。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。